

共生・公正・創造
共生の精神のもとに、心
とところをつなぎ、次代
につながる公正な社会を
創ります。

JR東日本労働組合 東京地方本部

JR東日本労働組合
東京地方本部
東京都千代田区鍛冶町2-11-11
発行者・郷 重雄 編集者・室岡 圭司
TEL(NTT)03-3251-2191
FAX(NTT)03-3251-2192



新年あけまして おめでとうございます 執行委員長挨拶

新年あけましておめ
でとうございます。
執行委員長の郷です。
組合員・ご家族の皆様

おかれましては、ご健勝
にお過ごしのこととお慶
び申し上げます。
さて、昨年は新型コロナ

ウイルスにより、私た
ちを取り巻く環境は大き
く変化してしまいました。
発生して1年が経過し海

外ではワクチンなどが開
発されていますが、感染
拡大の猛威は収束の気配
すら見出せずにいます。
新型コロナウイルスは、
私たちの命を危険に晒す
だけでなく、経済活動や
人の活動・移動の自粛に
より経済の悪化をもたら
し、働く場所を奪われた
労働者が数多く生み出さ
れてしまいました。JR
東日本においても、イン
バウンド需要の激減や移
動の自粛により、今年3
月期決算の予想を4、0
00億に上る赤字として
います。
新型コロナウイルスに
より社会や会社、そして
私たちの置かれている環
境は、今までに経験した
ことのない状況にある、
と言っても過言ではあり
ません。その様な中私た
ちは、本部が発した「第
9次ガイドライン」を守
りつつ、コロナ禍におけ
る労働組合運動を模索し
実践してきました。
JR東日本に働く者の
課題の一つは、コロナ禍
を乗り越えJR東日本を
発展させて行くことだと
言えます。私たち東日本
ユニオンとしても変わり
はありません。しかし、
発展させて行くためには
何もあり、と言うこと
にはなりません。働く者
が安全で安心して働ける
環境があるのか、現場第
一線で働く者とマネジメ
ントをする者の相互が納
得し日々の業務が遂行さ
れているのか、など枚挙
に暇がないほど多くのこ
とが問われ、発展に向け
た様々な業務が遂行され
て行くのだと思います。
これらのことを成し遂げ
て行くためには、安心し
て暮らせる社会づくりや
会社経営を、働く者の側
から検証し意見する責任
を持つ労働組合が必要で
す。私たち東日本ユニオ
ンはこの様な立場に立ち
職場に笑顔があふれ、働
きがいと活気ある職場を
つくり出して行けるよう
取り組んで行きます。
また、私たち東京地本
には、大きな課題があり
ます。組織の将来展望で
す。2018年の春闘以
降JR東日本の労政が大
きく転換され、組合未加
入者が多数となり、労働
組合の存在そのものが危
機に晒される状況になっ
てしまいました。更に分
裂により労働組合の力が
分散されてしまっている
状況です。働く側がバラ
バラでは、本当の意味で
の会社発展はないと思い
ます。互いに切磋琢磨し
て行くことは大切です。
しかし、互いの気持ちが一
緒でなければ意味があ
りません。だからこそ、
働く者、弱い者同士が寄
り添い、力を出し合っ
て、安全で安心して働ける職
場をつくり出して行く。
そんな仲間の輪をつくり
大きくして行くために、
その先頭に立ち取り組ん
で行きます。
残念ながら今年は、新
型コロナウイルス感染拡
大防止の観点から、新春
の集いの開催を断念しな
ければなりませんでした。
新年の節目の取り組みで
はありますが、ご了承を
お願いします。
コロナ禍の大変厳しい
年の初めですが、組合員・

ご家族の皆様のご健勝を
祈念し、新年のご挨拶と
します。共に頑張りますよ
う。



今後の活動予定

拡大分会代表者会議

日時 2月20日13時30分より

場所 未定(決まり次第お知らせします)

参加 各分会代表、エルダー協議会代表 各1名

本年もよろしくお願ひします
執行部一同

執行委員長 郷 重雄
執行副委員長 小宮 実
執行副委員長 佐藤 充
書記長 小泉弘明
組織部長 難波 剛
総務厚生部長 須貝欣一
業務担当部長 守屋和美
教宣部長 室岡圭司
会計監査員 久保田勉
会計監査員 鈴木英司
特別執行委員 依田匡一
特別執行委員 福田高夫